

生活習慣・学習習慣の改善を進める

実践推進ガイドライン

京都府教育委員会

はじめに

京都府教育委員会では、児童生徒の学力の充実・向上を図るためには、言語力の育成と学習意欲の向上が大変重要であると考えている。各学校では、すでに学力調査の分析結果を踏まえて、自校の課題を解決するための様々な取組が進められているが、学力向上のためには、この2点に基盤をおいた取組を進めることが、特に重要である。

中でも、学習意欲の向上については、各種検定等の手法を活用し主体的に学習に取り組む意欲・態度を身に付けさせる「チャレンジ学習」を実施するとともに、児童生徒の生活習慣の確立と学習習慣の定着を図る「まなびアドバイザー」の配置を中学校まで拡大するなど、学校と家庭・地域が連携した取組の支援を図ってきた。

今年度は、学力の充実・向上の基盤としての生活習慣や学習環境の改善を推進するため、本事業の委託を受け、府内5つの推進地区、計10校の推進校により、改善策の実践研究、開発に取り組んできた。

事業実施に当たっては、京都大学大学院教授子安 増生 氏と田中 耕治 氏に御指導いただき、4回の推進協議会を持ち、府内全地域共通の課題に取り組む「共通プログラム」の研究開発を進めてきた。また、推進地区においては、地域の実状に応じて生活習慣や学習環境の改善を図る「個別プログラム」の実践研究に取り組んだ。

I. 都道府県・指定都市教育委員会における取組

1. 事業内容について

(1) 事業概要

- 学力の基盤としての子どもの「生活習慣や学習環境」について、三つの内容(学習習慣・基本的生活習慣・家庭でのコミュニケーション)を推進地区教育委員会と連携し、改善を推進する取組を進めた。
- 推進地区において、改善のための具体的なプログラムを開発し、取組後に該当の質問について再調査するなどして改善状況を評価した。
- 推進校の実践から得られた成果と課題を踏まえて事例集を作成するとともに、シンポジウムを開催し、先進事例の普及に努めた。

(2) 実施体制

学校改善支援プラン(平成20年版)における生活習慣や学習環境における課題(学習習慣、基本的生活習慣、家庭でのコミュニケーション)について改善を進めるため、推進協議会で共通プログラムを先行開発し、各地区の実情や個別の課題に応じて進める「個別プログラム」の開発を支援し、推進地区において個別プログラムの研究、開発、実践に取り組んだ。

- 各教育局を推進地区とし、推進校を小・中学校各1校を指定
- 研究機関との連携によるデータ分析
- 推進協議会の開催(3回)
- シンポジウムによる成果普及
(別紙参照)

(3) 研究成果

- 全国学力・学習状況調査結果について、学力の基盤としての子どもの「生活習慣や学習環境」に焦点化した分析を行い、取り組むべき課題を明確にし、全体推進協議会と各推進地区教育委員会・推進校が、目標や改善の方向を共有して改善に向けた取組を進めることができた。

- 推進地区において、改善のための具体的なプログラムの開発・実践が行われ、その成果として児童生徒の生活習慣や学習への意欲に向上が認められた。
- 推進協議会、シンポジウムにおける実践交流から、推進校に共通した取組や、地域の実態に即した取組など、効果的な方法を明らかにすることができた。
- 各推進校で、自校や地域の実態に応じてアンケートの実施や学校評議員会での議論など、多様な方法で実践事例の評価を進めることができた。
- 「学力の基盤としての生活習慣・学習環境の改善に関するシンポジウム」を開催し、各推進校の実践内容と成果を広く普及することで、生活習慣・学習環境の改善に関する学校関係者の関心や意識を高めることができた。

2. 普及啓発と今後の取組について

(1) 成果の普及啓発に関する取組

- 共通プログラムとして検討してきたガイドラインと、各推進校の実践事例を「実践推進ガイドライン」としてまとめ、府内小中学校教員に配布した。平成22年度、この冊子を活用し、成果の普及と各学校の改善推進を具体的に図っていく。
- 「実践推進ガイドライン」で、課題として焦点化した内容を保護者向けパンフレットにまとめ、小中学校の保護者に配布した。府内各学校における家庭・地域と連携した取組の推進を図るために、家庭との連携を進める視点と具体的な内容を示した本パンフレットの活用を促進していく。

(2) 来年度以降の取組

- 基礎・基本の定着のために「中1振り返り集中学習『ふりスタ』」を充実
- 主体的な学習意欲を育てるために「チャレンジ学習」を拡充
- 30人程度の学級編制が可能となるよう教員を配置する「京都式少人数教育」の中学校への拡充の検討
- 学力の基盤となる言語力を育成するための「ことばの力」育成プロジェクトの推進
- 学習習慣確立のために「まなびアドバイザー」の中学校への拡充

----- II. アクションプラン推進校における取組事例 -----

生活習慣・学習環境の改善のための取組を次のように整理した。

各項目ごとに、アクションプラン推進校における実践事例を紹介する。

1. 学習意欲を向上させる取組

- (1) 分かる喜びを実感させる授業
- (2) 体験的な学習や基礎的・基本的な知識・技能を活用した問題解決的な学習
- (3) 学ぶ意義を認識させる授業

2. 主体的に学習に取り組む態度を養う取組

- (1) 児童生徒の興味・関心を生かした学習指導
- (2) 学習の過程を重視した評価
- (3) 学習の見通しを立てたり、振り返ったりする活動の工夫

3. 学習習慣を確立させる取組

- (1) 家庭への啓発・連携
- (2) 家庭学習としての宿題、予習、復習など
- (3) 学習の習慣化を促す児童生徒への働きかけ

＜身に付けさせたい資質や能力＞

- 1 主体的かつ粘り強く学習に取り組む態度を培う。
- 2 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させる。
- 3 多様な言語活動を通して国語力を向上させる。



＜プログラムの特徴＞

- 1 全教師の一致した授業改善の視点を共有化する。
- 2 全教科、全領域で国語力向上を目指した取組を推進する。
- 3 個別学習支援の方法を工夫する。

＜取組の概要＞

1 授業改善の推進

- (1) 毎時間授業の最初に本時のねらいを明確にする。(板書・ワークシート)
- (2) 学習内容を身近な生活と関連づけた授業を行う。
- (3) 基礎基本を確実に身に付けさせるために反復練習を重視する。
- (4) 個別の状況把握・支援を行うために丁寧に机間指導を行う。
- (5) 能動的に学習させるためのアクティビティを授業に取り入れる。

※ 国語科・保健体育科・英語科のペアワーク、理科・社会科の生徒研究発表会

2 国語力向上取組の推進

- (1) 全教科で国語力向上の視点を明確にして、具体的な活動に取り組む。

※ 校内研修：「読解力から教科力へ」京都教育大学教授 村上忠孝氏講演

- (2) 全教科で国語力向上を目指して、工夫した定期テスト問題を実施する。
- (3) 読書活動を活性化する活動を実施する。

読書表彰 (20冊読んでみようキャンペーン)、チャレンジ
(司書推薦書5冊読破で利用券)、長三中ベスト30冊
紹介、先生方のおすすめ図書一覧、タイムリーなおすす
め本コーナー設置、学級文庫、朝読書の実施



	H18	H19	H20	(H21)
読書表彰	20冊以上	136名	138名	90名
	100冊以上	11名	17名	8名
貸出冊数	1926冊	4167冊	4347冊	3097冊

- (4) 各種コンクールに積極的に参加する。

・京都新聞スクラップコンクール・全国中学生人権作文コンテスト等

3 個別学習支援方法の工夫

- (1) 自己チェックカード (美術科：見通しを持って学習に取り組む)、授業カード (保健体育科：相互評価含む)、ワークシート (社会科、理科等) の活用
- (2) 部活顧問による部活動単位での学習会、長期休業中の宿題取組・チェック
- (3) 生徒の実態にあった補充学習形態の実施
 - ・定期テスト週の教科補充、質問会、学級学習会
 - ・日常的な朝・放課後の自主勉強会
 - ・ふりスタ (1年)、アクションプラン (3年) の活用



＜取組の成果＞

- 1 質問紙調査の学習意欲・達成感に関わる8つの項目において向上が見られた。
- 2 学力状況調査で、3年間連続で正答率が向上し、全国、京都府の平均を上回った。
- 3 学校評価アンケートにおいて生徒の「積極的授業参加」の項目の評価が高まった。
- 4 各種コンクールで受賞者が増加した。

＜身に付けさせたい力＞

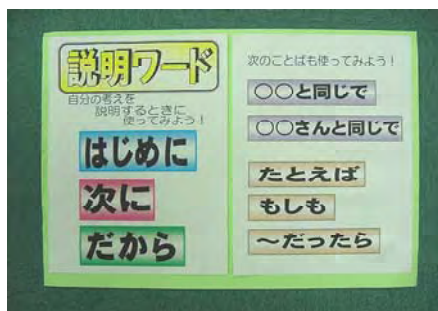
- 1 「みんなに伝える」ための表現力（説明する力）
 - (1) 自分の考えたことを説明するための方法や技能の習得
 - (2) 学んだことを生かし、聞く人を意識して説明する表現力

＜プログラムの特徴＞

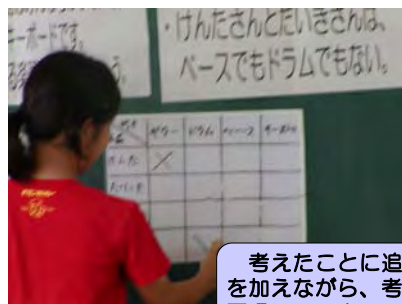
- 1 「説明ワード」「リアルタイムの説明」「想像説明」等の表現方法の指導
 - (1) 説明するときを使うキーワードを掲示し、意識して活用させるようにした。
 - (2) 黒板に式や図をかいたり、具体物を動かしたりする等、言葉と結び付けて動的に説明することを授業に積極的に取り入れた。
 - (3) 「友達なぜこう考えたのか」を別の児童に想像させて発表する場を設け、コミュニケーションを大切に授業を行った。

＜取組の概要＞

- 1 「説明ワード」

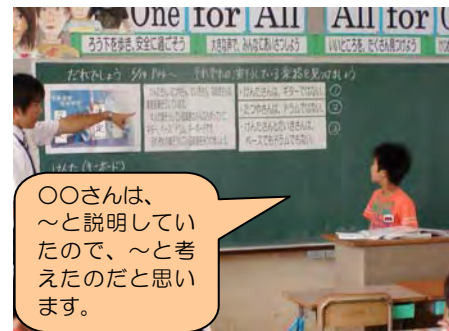


- 2 「リアルタイムの説明」



考えたことに追加・修正等を加えながら、考えの過程を再現していく。

- 3 「想像説明」



＜取組の成果＞

- 1 多様な説明方法を知り、その技能を身に付けることによって、自信をもって発表することができるようになった。
- 2 決まった言い方から、自分なりの説明の仕方へ発展させ、聞き手を意識した説明ができるようになり、表現の幅が広がった。
- 3 活発なコミュニケーションを通して、多様な考えを受け入れたり、考え方を想像したりし、友達の意見の良さに気付く児童が増えた。

＜身に付けさせたい力＞

- ・生徒一人一人に培われる達成感・充実感
- ・よりよく生きようとする意欲の育成
- ・生徒会活動の活性化
- ・豊かな生徒同士のつながり
- ・励まし合える人間関係



はあと・ほっと・タイムの様子

＜プログラムの特徴＞

- ・前向きで自信につながる取組の展開
- ・異年齢集団や同学年集団の取組
- ・生徒の自覚や在り方、よりよく生きようとする意欲の育成
- ・生徒自身が新しい面を見いだせるよう、現状を振り返りながら有意義な取組の創造
- ・親や地域の人に生徒の様子を積極的に発信
- ・家庭・地域との連携
- ・生徒同士の人間関係づくり～豊かな心の育成～
- ・生徒の力による改善させられるような仕組みづくり

＜取組の概要＞

- ・教師版「はあと・ほっと・タイム」
 - 教師が見つけた生徒の評価できるところを、全校集会で紹介(3週間毎の朝)
 - 目に付きにくいことをお互いに認め合うことで、生徒の前向きな雰囲気を作りだす。
 - 伝達表彰などの他の内容は入れず、余韻を持って終わる。
- ・生徒版「はあと・ほっと・タイム」
 - 生徒が気付いた生徒の評価できるところを見つけ、生徒会主催による全校集会で紹介(年間2回)
- ・保護者版「はあと・ほっと・タイム」
 - 保護者から寄せられた家庭での生徒の評価できることを、全校集会で紹介(年間2回)
- ・「夏みかんの日」の取組
 - 仲間の交通事故死を風化させず、「命・今・仲間」を大切にする生徒会の生活改善運動
- ・その他の取組
 - 目的意識を持って前向きに行動する力や他を認めたり、他から学ぶことによって自己を振り返り、自己の生き方を考えさせる(積極的生徒指導)。

全校道徳、全校合唱、地域学習、
体育祭種目、高龍カップ

道徳の授業について

平成21年度

みなさんはこれまで、道徳の学習を各学級ごとにやってきました。

道徳の授業は、世の中に存在するすべての事柄から人の在り方・生き方を考え、自分の心の中を見つめて、自分のこれからを大切にするために必要な授業です。

そこで君たちが君たち自身の中で、さらに自分の事として考えられるように、生徒全員が集まって行う道徳の授業(全校道徳)・学年ごとに集まって行う道徳の授業(学年道徳)を実施します。当然学級で行ってきたこれまで通りの道徳の授業も展開します。全校道徳は全校生徒を1年から3年までの12のグループに分け、思ったこと・思っていること・考えたことなどを出し分け、他の人の考えている事を自分の今後に向けて参考にし、今を含めた自分のこれからの人生に生かして行ってほしいという願いを含め、編成し、実施していきます。

人の気持ちを知り、お互いを知り、高龍中学校の生徒がより仲良くなり、自分を高めてほしいと思います。

学年道徳は同じ年代が集まって行う道徳の授業です。同年代で考え方などをより深めていってもらう為の授業となります。思っていることが同じということもあるでしょう。自分の思い方・考え方の確認もしてほしいと思います。

また今年度も、担任の先生だけが道徳を行うのではなく、先生達全員がそれぞれの場面(学年道徳あるいは全校道徳)で授業を行っていきます。その目的は、様々な先生方の指導を受ける中で、色々な価値観に出会い、自分の考えを深めていってもらう為です。

最後に道徳の授業に答えはありません。自分が思っていることが、すべて答えといえるかもしれません。従って、君たちが発言したことを否定されるものではありません。他の人が発言したことを自分に置き換え、自分で考え、考えを深め、心を輝かせ、これからの自分に生かし、人生を豊かなものにしてほしいと思います。

はあと・ほっと・タイム

生徒の良いところをお互いに確認しよう。
そして自分が生かそう...

○1学期初め、3年生の生活態度、一人一人の姿振りが気持ちよくなったように思います。道徳実践卒業目の前にして、やる気を感じます。

○面々が少ないというハンデを抱えながらも、毎日真面目に自身の濃い練習を積み重ねている男子バスケット部、必ず報われる。信じて努力を重ねて下さい。

○3年の高校推薦希望のを中心に、生活をまっさらにしてやる動きを見てほしいです。まわりの人にもその輪を広げてほしいです。

○技術の授業で、作業の速い人が速い人、自然に教えながらみんなに作業ができて、とても好感もします。

○給食の時、自分の分だけでなく班の友達や先生達の分までストローを配つてくれる優しい人がいます。

○どのクラスも躍うように、次の日の連絡を聞きに来るなど、自分の責任を果たそうと活動する姿も頼もしくほほえましくあります。

○学校が楽しい友達がいると、以前より連絡するのスピードが行動している人がいます。この調子で頑張れ!

○人に出会うと、しっかりと立ち止まり挨拶ができる生徒が数多くいます。かっこいい!

○2年生女子で、ワラジと自主勉強家練習を続けていた人がいます。

○1年生の男子バスケット部の人が夜走っていた。帰るときに2年生男子の作業3人が私の自転車にフレキがかりかかればなりました。と、わざわざ止まって謝してくれました。とても助かりました。ありがとうございます。

○男子バスケット部が部活動後、女子に技術教えた。外が暗くなくても、一人で自主練習していた1年生の男の人がいます。

○野球部は、走る練習を誰の手を抜く頭強いです。

○女子バスケット部は、怪我達うそ二一をしている人が、大きな声を出して聞いていた。2年生男子で、クラス員に年賀状を書いていた。

**自分の生き方に生かして
(生徒から生徒を見て)。**

学校だより

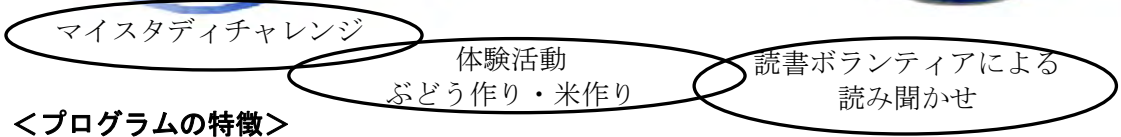
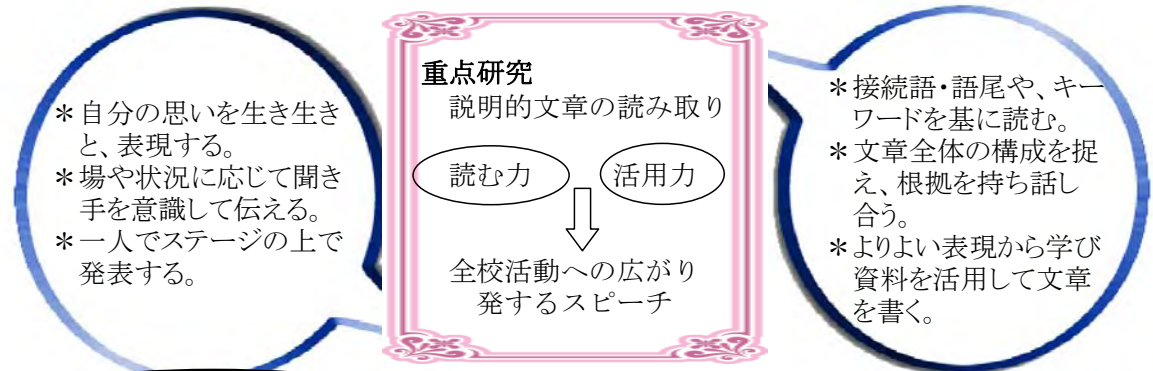
年度当初の道徳を始めるにあたっての資料

<身に付けさせたい力>

- ・自ら学ぶ力
- ・「ことば」を手がかりとした読む力 ⇔ 豊かな表現力
- ・論理的に思考し、自分の考えを筋道立てて書く力
- ・場や状況に応じたコミュニケーション能力・対話力・質問力
- ・新学習指導要領に対応した教育

<保護者・地域の願い>

- ・自分の思いを伝える力を付けてほしい。
- ・基礎・基本の学力を付けてほしい。
- ・学んだ力を広げ、コミュニケーション能力

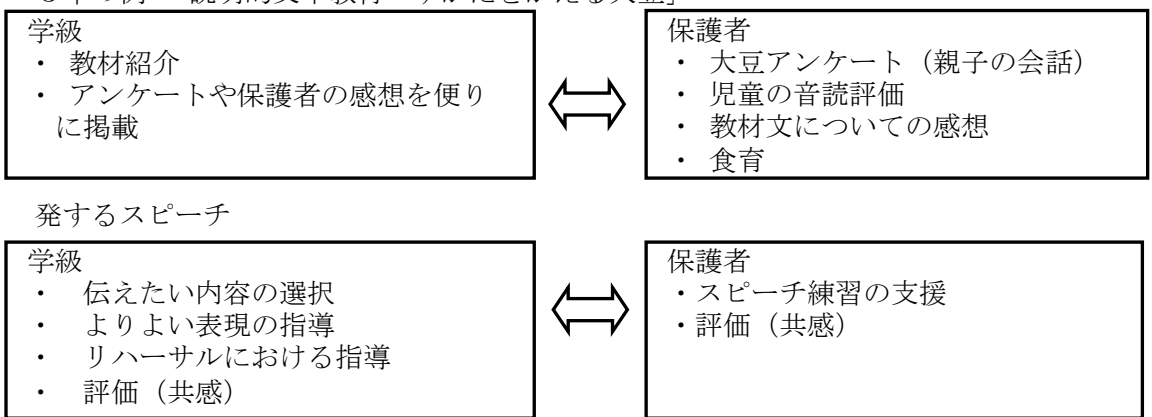


<プログラムの特徴>

・「ことば」を大切にし、読む力の向上を図ることや、自分の思いを豊かに表現することのねらいを保護者と共有し、評価することにより児童の意欲を高め、主体的な学びへと向かわせることができる。

<取組の概要>

3年の例 説明的文章教材「すがたをかえる大豆」



<取組の成果>

- ・「ことば」にこだわる授業や全校の取組で、基礎・基本の学力が身に付き活用力が高まる児童の姿を見聞きすることで保護者や地域社会の理解が得られた。また、評価が児童の学習意欲の高揚に繋がった。
- ・地域公開日では、聞き手を意識したスピーチや、場や状況に応じた感想交流ができた。保護者・地域社会・学校が一体となって児童の成長を見守る体制ができつつある。
- ・アンケートや便り等で、保護者と双方向で取り組む姿勢が教育実践を確かなものにし、児童の学力充実に効果的である。

<身に付けさせたい力>

- 1 意欲を持って家庭学習に取り組む。
- 2 自分の思いを自分の言葉で表現できる。

<プログラムの特徴>

- 1 学期に2回「豊かな言語活動を通じた学力・意欲の向上」をテーマに授業事前研究、授業研究、事後研究を実施し、言語活動を活発に行わせる手立てやすべての生徒に言語力を付けるための手立て、学習意欲を高めるための評価方法について、教科を越えて話し合った。
- 2 効果的な宿題について、川口・北陵ブロック研修会で京都府総合教育センターの出前講座を活用し、研修した。
- 3 授業形態に工夫を加え、授業の中で、教師の指示に従い、どの生徒も自分の意見を書いたり、発表したりできるように進めた。

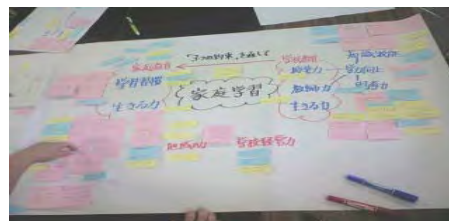
<取組の概要>

- 1 担当教諭が宿題を提示する際、その宿題の目当てや、評価を示しておく。
- 2 提出された宿題は担当教諭がしっかりと評価する。
- 3 単教科だけでなく、学校全体の取組として、組織的に行う。
- 4 授業の中での教師の発問に対して、個人で考える場面とグループで考える場面を発問に応じて設定し、それぞれ自分の意見を書き、発表する。またグループで他の生徒の意見を聞き、まとめて発表するなど、書く力・聞く力・発表する力を養う。

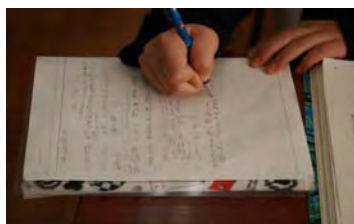
<成果>

- 1 家庭学習につながる教科指導の工夫にかかわり、宿題について、川口・北陵ブロックで研修できたことは大きな意義があった。
- 2 ブロック研修を受けて、いかに教科指導の中で文章力・表現力を付けるかについて、組織的に実践することを目的に、事前研究、研究授業、事後研究を実施し、討議できたことは意義あるものであり、今後の研究推進の土台づくりができた。

夏季ブロック研修（出前講座）



校内授業研究会（国語科）



<身に付けさせたい力>

- 1 確かな学力の育成のために必要な学習・生活基盤
 - (1) 基礎的な生活の習慣づけ
 - (2) 文字に慣れ親しむ（読書）
- 2 佐濃小の児童に付けたい力
 - (1) 粘り強く取り組む力
 - (2) ことばで伝える力

<プログラムの特徴>

- 1 学校と家庭が連動した動きにするために
 - (1) 学校の先行した取組の公開
 - (2) 学校での取組成果の発信
 - (3) 家庭への積極的な啓発
 - (4) 習慣化を目指す連続した取組
- 2 児童の意欲を喚起するために
 - (1) 各学級担任による家庭での自主的な学習への動機づけの工夫
 - (2) 学校全体での表彰等を活用した家庭学習の奨励

<取組の概要>

- 1 「家庭学習のすすめ」と「家庭学習の手引」配布による啓発
 - (1) 「家庭学習のすすめ」

家庭学習の意義や低・中・高学年別の学習のポイント、家庭学習の時間の目安などを1学期に保護者向けに配布し、学校としての考え方を示した。
 - (2) 「家庭学習の手引」

2学期には、児童向けに家庭学習の進め方、家庭学習の時間の目安、自主的な学習の例示を配布した。
 - (3) 配布にあたっての連動した動き
「家庭学習のすすめ」と「家庭学習の手引」配布にあたって、事前に校内研修で、この取組によって家庭学習をどのように変容させていくかを共通理解した。また、各学級でも啓発内容を補完する具体的取組を担当の持ち味を生かして進めた。家庭に、学校は啓発するだけでなく連動した動きをしていることが伝わるよう工夫した。
- 2 家庭学習の手引等の配布を生かすために連続した全校体制での取組
 - (1) 「家庭学習実態調査」を踏まえての指導
自主的な学習が児童に浸透する前段階として、宿題等のすべき課題の達成状況をつかむために調査を実施した。
調査で把握した家庭学習が未定着な児童に対して、学級担任から保護者への働きかけと合わせて、管理職を含む担任外の教員による学校でのフォローの時間を設定して指導するなど学校体制として実施した。
 - (2) 「家庭学習がんばり週間」の設定
各学級で「家庭学習の手引」に基づいて家庭学習に取り組み、さらに未定着児童の解消を目指した取組も進め、成果が教職員にも家庭にも見える段階と判断した時期に、「家庭学習がんばり週間」を二度実施した。

記入用紙に、どのくらいの時間、どのような内容（中・高学年は特に自主的な学習）を学習したかに絞って児童が1週間記入した。毎日、担任と保護者のコメントを交換した。最後に児童と保護者の感想を書くという方法で実施した。

(3) 「家庭学習ノート展」開催による児童・保護者へのさらなる啓発

3学期には、これまで個々の児童が家庭での自主的な学習（低学年は宿題）で意欲的に取り組んできた家庭学習ノートを全員分コピーして展示した。そして保護者・地域の方が参観される行事の日に展示し、啓発の場とした。

工夫したまとめ方や使い方をしているノートや丁寧な字でまとめているノートには、学校賞のシールを貼り意欲づけとした。さらに最も良いまとめをした児童を「家庭学習チャンピオン」として学校朝会でトロフィーをわたすなどして表彰し、さらなる意欲付けとした。

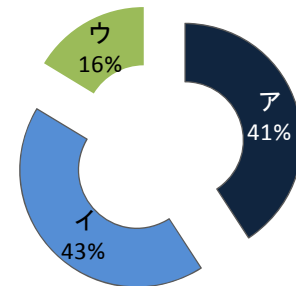


<取組の成果>

1 保護者の家庭学習の重要性への意識が高まった。

(1) 保護者アンケート及び感想から

◇ 8割を超える保護者が子どもの家庭での学習に関心を持っている結果となり、学校や学級での家庭への啓発活動が浸透してきている。



(2) 保護者の「家庭学習がんばり週間」の感想から

自分で考えて勉強することは大変だけど小さい時から習慣付くように、学校でも働きかけてやってください。よくがんばっていました。

毎日、学校から帰って、すぐに宿題にかかります。分からない所など、すぐに聞かずに教科書を出して自分で調べることができていました。教科書を開くと自分で調べたいところ以外のところも熱心に読んだりしています。

＜身に付けさせたいカ＞

- 1 親子で心を耕すことを目指して
 - (1) 道徳教材を親子で読むことを通して、道徳的な価値に触れる。
 - (2) 道徳教材を読む中で、親が子に、また、子が親に、内容に関して感じたことなどを交流する。
 - (3) 児童の道徳的な感覚を保護者に知ってもらう。
- 2 家庭での学習習慣の定着を目指して
 - (1) テレビを消して、家庭でも読書に向かう姿勢を身に付ける。
 - (2) 保護者に学習内容を知ってもらう。

＜プログラムの特徴＞

- 1 「サンデー 親子デー 道徳」の実施
 - (1) 親子読書の書物を「京の子ども 明日へのとびら」に限定すること
 - (2) PTAとの共催で行うこと
- 2 「サンデー 親子デー 読書」の実施
 - (1) 親子で読書する本を選定して、実施

The poster titled 'SUNDAY PROJECT' details the 'サンデー 親子デー 道徳' program. It lists the dates (Nov 22-12 13), the goal of reading together, and the selection process. Below the poster is a table for recording book selections.

学年	11月22日	11月29日	12月6日	12月13日
読んだ作品				
いっしょに読んだ人				
読んだ理由				
感想				
子どもの感想				
保護者の感想				

＜取組の概要＞

- 1 「サンデー 親子デー 道徳」について
 - (1) 毎週日曜日に親子で「京の子ども 明日へのとびら」の中から作品を選んで読書（右表は選んだ教材のベスト5）
 - (2) テレビを消して実施
- 2 「サンデー 親子デー 読書」
 - 推薦図書を教職員とPTAとで選び、紹介

低学年 ベスト5 (人)	
1 わたし、あなた、家ぞく	38
2 あなたへの おくりもの	30
3 ごっこあそびを しよう	28
3 むかしの 子ども	28
5 おてつだい	28

＜取組の成果＞

- 1 児童の反応
 - (1) 難しい内容であっても、お家の人に教えてもらえた。
 - (2) ためになる話がいっぱいあった。
- 2 保護者の反応
 - (1) 「親自身も勉強になった」「親子で心を耕す時間になった」など、肯定的な意見が多かった。
 - (2) 「このようなプロジェクトは続けてほしい」や「ノーテレビ運動をしては」など、さらに発展的な意見も出た。
- 3 学校として
 - (1) 学校だけでなく、親子で心を耕すきっかけをつくることができた。
 - (2) 家庭にも、道徳教育の大切さを感じてもらうことができた。

中学年 ベスト5 (人)	
1 そうじする	29
1 すてきな人	29
3 小学生のころ	26
4 いっしょにがんばってみよう	25
5 おじいちゃんのおそう式	19
5 家族	19

高学年 ベスト5 (人)	
1 駅伝大会	23
2 サンゴの心配	20
3 小学校生活 最後の運動会	19
4 あいさつについて	17
5 祖父の話	14

<身に付けさせたい力>

- 1 基礎的・基本的な内容の定着
- 2 質の高い学力の育成

<プログラムの特徴>

- 1 反復による補充学習の充実
 - (1) 学力補充時間の設定と復習問題の作成
 - (2) 昼休み・放課後・長期休業中の補充教室の実施
 - (3) 授業とリンクした家庭学習の提示
 - (4) 1年生の「ふりスタ」の有効活用
- 2 効果的な指導方法の工夫・改善
 - (1) 少人数習熟度別指導の実施
 - (2) 授業改善のための授業研究・事後研究会等、研修の充実
 - (3) 自主学习ノートの取組の拡充

<取組の概要>

- 1 反復による補充学習の充実
 - (1) 学力補充の時間について
週1回（水曜日1校時）、5教科（学年の課題により教科設定）の担当教員作成の小テストを実施し、目標到達点に届かない生徒については、個別指導により放課後等にやりきらせる。
 - (2) 授業とリンクした家庭学習の提示について
特に5教科については、極力、プリント等の作成により授業の復習や予習と結びつく家庭学習の課題を与え、わかる授業と家庭学習習慣の定着につながるよう努めている。
- 2 効果的な指導方法の工夫改善
 - (1) 授業改善のための授業研究・事後研究等、研修の充実について
本年度は、授業研究（公開授業）にあたり、生徒が意欲的・主体的に学習に取り組めるようにするために、指導者が一工夫したことをその授業の中に盛り込み、授業改善を図るよう努めた。
 - (2) 自主学习ノートの取組の拡充について
学級担任主導で、家庭での自主学习ノートの取組を精力的に行なっている。

<取組の成果>

- 1 補充学習について
小テスト等の実施により評価するとともに、目標点に到達しない生徒については、必ずやりきるように補習等を設定している。このことにより、基礎基本が定着しつつあり、学習意欲が向上してきた。
- 2 効果的な指導方法の工夫改善について
授業研究等の充実により、教員が授業改善に意欲的に取り組むようになり、そのことが生徒の意欲的な授業態度に反映してきた。
- 3 その他の取組について
1年生のクラスでは、自主学习ノートの取組でクラス全員が提出できる日も出てきた。取組内容も充実し、学習意欲の向上にもつながっているこの動きを全校に広めたい。

<身に付けさせたい力>

- 1 学習に関しての生徒のメタ認知能力
- 2 学習を見通す力と学習を振り返る力

<プログラムの特徴>

- 1 学習する意義と学習の仕方の一般的な説明
- 2 教科ごとに付けたい力と教科での学習の仕方、家庭学習の仕方を解説
- 3 3年間を見通した学習の仕方も挿入
- 4 評価の観点もわかりやすく提示
- 5 毎年改善を加え、リニューアル版を作成予定

<取組の概要>

本校生徒の基本的な生活習慣と学力についての調査・分析
(全国学力・学力状況調査のクロス分析+全生徒へのアンケート調査)



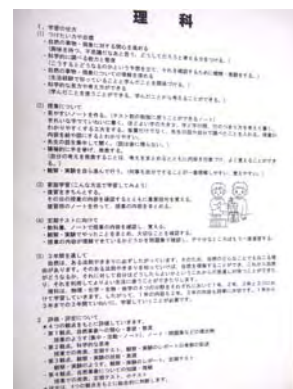
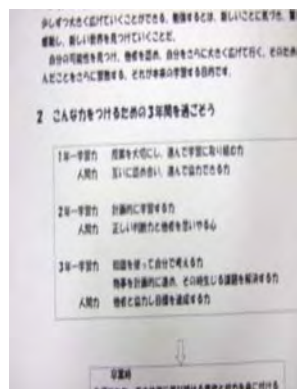
(研修) 生徒の課題把握
(各教科部会で) 各教科の課題検討



教科部会で各教科分作成



研究部でまとめ作成、配布、活用



<取組の成果>

- 1 学校全体として活用することにより、二者面談や教育相談等で生徒への学習のアドバイスに利用することができた。
- 2 生徒が見通しを持った学習計画を立てるために役立った。
- 3 テスト前などに、計画的に学習に向かえる生徒が増えてきた。
- 4 保護者にも学習の仕方が分かり好評である。

学力調査活用アクションプラン推進事業(京都府)

- ☆ 引き続き基礎学力を重視
- ☆ 活用する力を更に高める
- ☆ 学力の基盤となる言語力を育成
- ☆ 児童生徒の学習意欲を高める

全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、学力の基盤としての「生活習慣や学習環境」の改善を進めるプロジェクト

- ◇ 3つの課題に焦点化
〔学習習慣〕〔基本的生活習慣〕〔家庭でのコミュニケーション〕
- ◇ プログラム開発 → 推進校で実践研究 → 効果検証
- ◇ 成果をもとに事例集作成・シンポジウム開催

- ☆ 共通した課題に基づく「共通プログラム」と地域の実情に応じた「個別プログラム」を開発
- ☆ アクションプラン推進校で、地域・保護者と連携して実践開発

アクションプラン推進協議会

共通プログラムの開発

- ◇ アクションプランの策定
- ◇ 共通プログラムの先行開発
 - ① 「実践推進ガイドライン」作成
「宿題の出し方」「家庭学習の手引き」など
 - ② 「親と子の言葉の菜」の活用事例提示
「京の子ども『ことばの力』育成総合対策事業」連携
- ◇ 「学習環境」「基本的生活習慣」の課題改善に焦点化したデータ分析（平成21年度調査）
- ◇ 「生活習慣や学習環境」に関する研修の実施
- ◇ 実践研究の検証・総括
- ◇ 実践事例集の作成
- ◇ シンポジウムの開催

【構成】

府学校教育課・教育局・推進地区教育委員会・推進校・学識経験者

改善モデルを府内に普及

アクションプラン推進地区・推進校

個別プログラムの開発・推進

- ◇ 推進地区の現状や課題に即し、学習習慣、基本的生活習慣確立に向けた個別プログラムの開発
- ◇ 学力向上につながる「家庭でのコミュニケーション充実プログラム」の開発
- ◇ 自校の実践の評価・検証のための取組
- ◇ アクションプラン推進協議会への参加
- ◇ 実践事例の提供
- ◇ シンポジウムでの研究発表

乙訓教育局 管内推進地区 (教育委員会)	山城教育局 管内推進地区 (教育委員会)	南丹教育局 管内推進地区 (教育委員会)	中丹教育局 管内推進地区 (教育委員会)	丹後教育局 管内推進地区 (教育委員会)
----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------	----------------------------

【推進校】 小学校1校 中学校1校	【推進校】 小学校1校 中学校1校	【推進校】 小学校1校 中学校1校	【推進校】 小学校1校 中学校1校	【推進校】 小学校1校 中学校1校
-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------	-------------------------

家庭、地域と連携した取組

助言・情報

評価
効果検証

報告

大学・研究機関で分析

京の子ども『ことばの力』育成総合対策事業